

## 自由テーマ

### 原田地区の未来を明るくするために

原田地区の最大の問題は人口減少です。人口減少を止めるのは人口増加です。原田地区の人の転出や少子化が止まって、Uターン者や転入者が増加していけば、活気が戻り、暮らし易さも高まり、人々の交流も高まります。人口増加の為には、原田で安心して生活できることが必要です。そのためには第一に経済的に困らない生活です。

## テーマ選定理由

市は、2000年～2023年の総合計画などで、市西北部地域に関しても計画を示しながら、実際には20年余りその計画を実行していません。過去の「市民と市長の交流ノート」でも、原田や原谷の住民は総合計画の早期実現を要望してきましたが、市は先送りしてきました。その約20年間に原田地区では過疎化、少子化、高齢化、公共機関の撤退が進んで、地域活力・経済力が低下し、人材が不足し、自治会活動が低下してしまいました。農業振興地域であっても肝心の農業の担い手が高齢化し減少し、後継者が不足しています。将来に明るい展望を持てなくなっています。

それに引き換え、隣接の島田市、森町、磐田市は、新東名インターチェンジを活用した地域開発、雇用確保、経済発展にすでに取り組んで成果を上げています。袋井市は山梨地区で丘陵地を開発し工場誘致、住宅地造成、経済活性化、雇用確保を大胆に進めています。

以上のことから、原田地区を真に救う最良の道は、人口増加を誘導する地域開発を行うことであることは明らかです。周辺市町はそれをすでに行っています。今必要なのは掛川市の即断即決と実行力です。

## 具体的な提案等

- ① 市は2000年、2012年公表の総合計画、2018年の都市計画マスタープランなどで森掛川IC周辺地域の開発を示していますが、いまだに絵に描いた餅のみであり、このままでは森掛川IC開通という市西北部を発展させる千載一遇のチャンスを逃してしまいます。今すぐに原谷・原田地域に工業団地や物流拠点を開発することを切望します。  
そうすれば雇用が生まれ、経済が活性化し、原田地区に居住して地元企業に通勤する若い世代も増え、高齢化や人口減少に歯止めがかかるはずで、農業後継者も増えます。
- ② 市は2000年の総合計画や2013年の道路整備プログラム、2018年の都市計画マスタープランで、森掛川ICへのアクセス道路として西部環状道路（西環状線）を計画してきましたが、20年余り何も進展がありません。早急に西部環状道路の整備に着手してください。

(裏面に続きます)

- ③ 寺島・幡鎌地区が県畑地帯総合整備事業（2018年交流ノート）や県内陸フロンティア（ふじのくにフロンティア推進地域）に指定された（2020年第2次総合計画基本計画改定版）そうですが、現状は森林原野や耕作放棄された田や茶畑が拡大しているだけです。IC最隣接地域という特性を生かした地域開発を今すぐに始めてください。

#### 参考

- ◎ 島田市：2018年から新東名島田金谷IC周辺地区計画を作成し開発中。
  - ◎ 磐田市：2016年に下野部工業団地を完成、2021年に新磐田スマートICを設置
  - ◎ 森町：2017年に森掛川IC周辺次世代産業集積区域と遠州森町パーキングエリア周辺有効活用推進区域の工事着手
  - ◎ 袋井市：2016年から中遠広域都市計画を作成し、市内各地の開発を推進中。  
別添の朝日新聞2018年3月7日の朝刊「袋井市人口増が続くのは」も参照
- ④ 学校再編により、原田小学校は廃校となることが予想されます。原田地区にあっては、この学校、学習センターが自治活動の中心となってきました。今後校舎、体育館はどうなるのか？
- 1 現時点の市の考えを伺いたい
  - 2 全国的にどのように活用されているのか？ を例として伺いたい。
- ⑤ 子供対策&移住対策はあるか。他市と比較して優位性はあるか、遅れているのは何か。